

研究課題の名称

「腰部脊柱管狭窄症術後におけるしびれ同調 TENS の効果検証」

研究の目的及び意義

腰部脊柱管狭窄症(Lumbar spinal Canal Stenosis : LCS)は下肢痛やしびれ、間欠性跛行を主症状とし、なかでもしびれは術後に遺残症状となりやすい。先行研究では、LCS 患者を対象に経皮的電気神経刺激(Transcutaneous Electrical Nerve Stimulation: TENS)により下肢遺残症状が有意に改善したことが報告されている。しかし、渉猟し得る限り、しびれに限定した TENS の臨床効果は検証されていない。そこで本研究の目的は、LCS 患者を対象に、しびれに対する TENS の有効性を明らかにすることである。本研究によって、TENS により LCS 術後患者のしびれを減少させることが明らかになれば、これら患者の満足度上昇が期待できる。

研究対象者の選定方法

対象者は、洛和会丸太町病院で LCS に対する手術を実施し、術後にしびれが残存した症例のうち、TENS を使用した患者 30 名程度である。カルテ情報から、疾患名や年齢、性別、病歴、実施前後の主観的なしびれ感の強度を収集する。

予定研究期間

研究倫理委員会承認日から 2029 年 12 月 31 日